

# 一般社団法人 日本脊椎脊髄病学会 平成 29 年度 第 2 回プロジェクト委員会 議事録

日時 : 平成 29 年 7 月 13 日 (木) 午前 10 時 30 分 ~ 11 時 30 分  
場所 : TKP 新宿カファレンスセンター 5F カファレンスルーム 5A

出席者 : 山下 敏彦 (担当理事)、川上 守 (委員長)、波呂 浩孝、今釜 史郎、  
山崎 正志、村上 英樹、海渡 貴司、西田 康太郎、宮腰 尚久、松山 幸弘、  
井上 玄 (以上委員)、田口 敏彦 (アドバイザー)

以上 12 名

欠席者 : 山田 宏、持田 讓治 (アドバイザー)、新谷 歩 (アドバイザー)

以上 3 名

## 議題

### 1. プロジェクト「慢性腰痛症に対する薬物療法の臨床経済研究」について

海渡委員より、現在の解析状況について報告があった。解析可能データは第 1 期完了 570 症例、第 6 期完了 427 例で現在も解析中。海渡委員より、いくつかのテーマに分け、テーマごとに担当者を決め、並行して論文を進めてはどうか、と提案あり。審議の結果、以下のように担当を決定、authorship に配慮して準備を進めることとなった。

1. 費用対効果 : 海渡 貴司 (大阪大学)
2. 薬剤各での効果の違い : 井上 玄 (北里大学)
3. 患者背景による予後因子 : 今釜 史郎 (名古屋大学)  
村上 英樹 (金沢大学)
4. 薬剤変更・追加パターン : 新谷 歩 (大阪市立大学)
5. 診察時間と治療効果・精神要素との関連 : 宮腰 尚久 (秋田大学)
6. 合併症、Lab data と治療効果の関連 : 西田 康太郎 (神戸大学)

### 今後のスケジュールについて

- 各担当者が 1 ヶ月程度を目処に、海渡委員とデータに関してやり取りし、たたき台を作製する。
- 各委員で校閲し、6 ヶ月を目処に論文を目指す。

松山委員より、日本臨床整形外科学会が主導する本研究と類似する研究に関し、先方より研究手法などの情報提供の依頼があった為、提供して良いかとの提案あり。提供することが了承された。

今釜委員より、異なる患者群を対象とし、同様の評価法を用いた他剤に関する研究を名古屋大学独自で行っており、その研究の論文公表の時期に関して相談あり。検討した結果、本プロジェクト研究の論文公表後に、名古屋大学の研究結果を公表することとなった。

## 2. プロジェクト「頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物療法の臨床経済研究」について

村上委員、今釜委員より提出された資料を基に、研究内容に関して各委員の意見が出され、以下が決定された。

- 症状を基準に対象患者をリクルートする。
- 頸肩部の痛みを主訴とする患者が対象となり上肢痛の有無は問わない。
- 経過観察期間は6ヶ月とする。評価は1ヶ月ごとに行う。
- 全患者を頸部神経根症治療成績判定基準を含めた統一した評価法で評価する。
- 経過中に内服状況が変化した場合、記録として残すこととし、評価のタイミングは変更しない。
- 急性痛・慢性痛の両方を含める。
- 投薬治療を行わない患者は対象としない。
- 精神的要素に対する評価も行う。
- 保険の種類に係わらず、交通事故、労災に関連する症例は省く。
- 肩関節疾患に対してはいくつかの項目を設定し、当てはまるもの、あるいは診断に迷うものに関しては除外する形式とする。
- ドロップアウトの理由として「完治により終了」などの項目を追加する。
- ドロップアウト症例に関しては電話や郵送での調査などを考慮する。
- 今後、日本脊椎脊髄病学会の倫理委員会に研究計画書を提出し、審議に諮る。
- 本研究責任者を田口理事長、データ管理責任者を新谷委員とする。

3. 次回開催日時 2017年10月26日朝、第32回日本整形外科学会基礎学術集会の開催される沖縄コンベンションセンターで予定

以上

文責：井上 玄